

高村 光太郎

たかむら こうたろう

高村光太郎は、明治16（1883）年3月13日、上野公園の西郷隆盛像で知られる彫刻家・高村光雲の長男として東京に生まれました。東京美術学校で彫刻、洋画を学んだ後、欧米へ留学。美術・彫刻の他、ヴェルレーヌ、ボードレールらの詩を学びました。彫刻家としても詩人としても、かずかずの名作を遺しています。昭和31（1956）年4月2日に亡くなりました（妻・智恵子は昭和13（1938）年10月5日に亡くなりました）。

レモン哀歌

あいか
（『智恵子抄』より）

そんなにもあなたはレモンを待つてゐた
かなしく白くあかるい死の床で
わたしの手からとつた一つのレモンを
あなたのきれいな歯ががりりと噛んだ
トパアズいろの香気が立つ

その数滴すうてきの天てんのものなるレモンの汁しるは

ぱつとあなたいしきの意識せいじょうを正常せいじょうにした

あなたあおの青すく澄めんだ眼めがかすかに笑わらふ

わたしての手にぎを握にぎるあなたちからの力けんこうの健康けんこうさよ

あなたのどの咽喉あらしに嵐あらしはあるが

かういふ命いのちの瀬戸せとぎはに

智恵子ちえこはもとの智恵子ちえことなり

生涯しやうがいの愛あいを一瞬いつしゆんにかたむけた

それからひと時とき

昔山巔むかしさんてんでしたやうな深呼吸しんこきゅうを一つして

あなたきかんの機関きかんはそれなりに止とままった

写真しやしんのまえに挿さした桜さくらの花はなかけに

すずしく光ひかるレモンきょうを今日おこも置おかう

人に (『智恵子抄』より)

いやなんです

あなたのいつてしまふのが——

花はなよりさきに実みのなるやうな

種たね子ねよりさきに芽めの出でるやうな

夏なつから春はるのすぐ来くるやうな

そんな理窟りくつに合あわはない不自然ふしぜんを

どうかしないであいるで下ください

型かたのやうな旦那だんなさまと

まるい字じをかくそのあなたと

かこう考かんがえへてさへなぜか私わたしは泣なかれます

小鳥ことりのやうに臆病おくびょうで

大風おおかせのやうにわがままな

あなたがお嫁よめにゆくなんて

いやなんです

あなたのいつてしまふうのが――

なぜさそうたやすく

さあ何なんといひませうしょう――まあ言いはばわ

その身を売る気になれるんでせうみ う き しょう

あなたはその身を売るんですみ う

ひとり せかい
一人の世界から

ばんにん せかい
万人の世界へ

おとこ ま
そして男に負けて

むいみ ま
無意味に負けて

なん う しゅうあくじ しょう
ああ何といふ醜悪事でせう

そ
まるでさう

か え
チシアンの画いた絵が

つるまきちよう かいもの で
鶴巻町へ買物に出るのです

わたし さび
私は淋しい かなしい

なん き
何といふ気はないけれど

ちようど くだ
ちやうどあなたの下すつた

あのグロキシニヤの

おお はな くさって み よう
大きな花の腐つてゆくのを見る様な

わたし す くさって み よう
私を棄てて腐つてゆくのを見る様な

そら たび とり
空を旅してゆく鳥の

え じつと い よう
ゆくへをぢつとみてゐる様な

浪の砕けるあの悲しい自棄のころ

はかない 淋しい 焼けつく様な

——それでも恋とはちがひます

サンタマリア

ちがひます ちがひます

何がどうとはもとより知らねど

いやなんです

あなたのいつてしまふのが——

おまけにお嫁にゆくなんて

よその男のこのころのままになるなんて

冬が来た (『道程』より)

きつぱりと冬が来た

八つ手の白い花も消え

公孫樹の木も筭になつた

きりきりともみ込むやうな冬が来た

人ひとにいやがられる冬ふゆ

草木くさきに背そむかれ、虫類むしるいに逃にげられる冬ふゆが来きた

冬ふゆよ

僕ぼくに来こい、僕ぼくに来こい

僕ぼくは冬ふゆの力ちから、冬ふゆは僕ぼくの餌食えじきだ

しみ透とおれ、つきぬけ

火事かじを出だせ、雪ゆきで埋うめろ

刃物はもののやうな冬ふゆが来きた

【参考資料】

- ・ 『高村光太郎詩集』 (角川春樹事務所)
- ・ 『智恵子抄』 (新潮社)
- ・ 『高村光太郎 (新潮日本文学アルバム 8)』 (新潮社)
- ・ 『智恵子抄 (ジュニア版日本文学名作選 ㊦)』 (偕成社)